

港湾労働者は「ITFの6つの要求」を実現する

港湾労働者がマラケシュで一堂に会し、権利、安全、労働基準を守る闘いを決意した

国際運輸労連(ITF)の世界大会で議論されている6つの要求は、ITF 港湾部会の中核的活動となる。本日開催された港湾部会総会でもこのことが確認された。

世界の港湾労働者が直面している諸問題は、ITFが掲げる説明責任、平等、権利、安全、持続可能性、仕事の未来の6つの要求と密接に関連している。これらは、すべての交通運輸労働者の生活に真の変化を実現するための、相互に関連する重要な活動分野である。

パディ・クラムリン港湾部会議長は次の通り述べた。「ITFを設立したのは港湾労働者と船員だ。我々港湾労働者は自分たちが貨物の終着点にいることを知っている。やつらは我々を分断するためなら何でもやる」

「我々港湾労働者は、(それが権利であれ、尊厳であれ、貧困に陥ることのない賃金であれ、職場の安全であれ、)我々の仕事にふさわしい品位と尊厳を期待している」

6つの要求は、自動化、労働安全衛生、平等など、港湾労働者が直面している諸課題と多くの点で重なっている。

「サプライチェーンにおける説明責任」(サプライチェーンのトップに位置する企業に対して、サプライチェーン全体の権利侵害の責任を追及する活動)は、輸送・ロジスティクス大手がさまざまな輸送モードを買収し、事業統合を進める中で、港湾部会にとっても重要な活動領域となっている。港湾労働者は、あらゆるところで連帯と闘争を繰り広げてきた長年の経験から、向こう5年間に期待される重要な役割に腕をならしている」クラムリンは続けた。

「我々の5カ年計画は全員の参加なしには遂行できない」と、女性代表に選出されたジェシカ・イスビスターは述べた。

「団結と連帯こそが、向こう5年間の我々の道しるべとなる。困難な5年間となるであろうし、我々の闘いが容易でないことは分かっている。しかし、団結が強まれば強まるほど、困難を乗り越えられる」

「女性・青年の活用は不可欠だ。湾労部会はこれを率先してきた。港湾部会安全衛生委員会の委員の40%は女性だ。我々はこれを誇りに思っている」

自動化・デジタル化といった「仕事の未来」は、利益を追求する企業が「進歩」として繰り返し宣伝しているが、ニュージーランドの事例が示すように、現実には、生産性向上は虚偽の主張であることが多く、その結果、港湾労働者の雇用が脅かされ、職場の安全が危険にさらされている。

「自動化のため、投資はどんどん増えている。そして、この投資は20年間は回収できない。労働条件への圧力が高まることを懸念している」と、第一副議長に選出されたニック・スタンは述べた。

「自動化に反対することもできるが、まずは自動化についての理解を深める必要がある。生産性はどうか？港湾労働者は貧しくなるために働いているのではない。雇用はどうか？」

「我々の使用者が自動化を望む理由を把握しなければならない。ロッテルダム港等のドイツの港や他の世界中の港の経験を蓄積してきた。我々はより強く、より賢くなれる」

総会は、利益を追及し続ける企業の貪欲に対する加盟組合の闘いを背景に開催された。例えば、米国東海岸のUSMXに対するILAのスト、キューブ・ポートに対するMUAの全国闘争、ボルサン港を拠点とするボルサン・ロジスティックASに対して結社の自由を求めるトルコのリマン・イシュ組合の闘争などである。

「争議を闘い、ピケラインに立つこと、そこからすべてが始まる」と、第一副議長を退任するウィリー・アダムスは語った。

「争議・ピケ現場に行き、仲間と腕を組もう。彼らは兄弟姉妹のようにあなたの目を見つめるだろう。そこで初めて真の連帯の意味を知ることができる。使用者は我々が結束するのを目にすると怖がるもの」。

「ITFのパワーと強みはここにある。我々港湾労働者だ」

「我々は戦闘的で、力強く、異なるタイプの威厳がある。我々がサプライチェーンをコントロールしている。我々には大きな力がある。使用者らはそれを知っている」

総会では、向こう5年間の活動計画を推進する港湾部会委員会の委員も選出された。議長にはパディ・クラムリン（再選）、第一副議長にはニック・スタム、第二副議長にはボビー・オルベラが選出された。